

支えることは 被害者も出さず 加害者も作らない

明日の空代表

飯田智子さんに聞く

5月下旬ある日の夕方、御殿場線下土狩駅にほど近い、おぎ法律事務所でNP O 法人静岡司法福祉ネット「明日の空」代表の飯田智子さんにお会いし、話をうかがいました。

「44回も刑務所に入ったおじいちゃんは認知症でした」「おにぎり1個を万引きして再犯のため懲役3年の実刑を受けた人も」

私の出会った人たちです。私たちのNP O 法人は、罪を犯した人を支援していき

追い詰められると

「犯罪者を支えるなんて」とも受け止められたり、「私には縁がない、関係ない」と思われたりするでしょう。でも、刑務所に入って

もいずれば出所してくるのです。

追い詰められている人が社会が追いやることで一層孤立し、孤立することで罪を犯してしまう・・・と負のスパイラルになります。

被害者はもちろん支えなければなりません。罪を犯した人を支えることで、加害者を作らず、被害者も生まない社会をと思います。

高齢者や知的障害者に限らず

誰もがこの社会で生きざらさを抱えたり、罪を犯しうるのですが、発達障害や軽度の知的障害者などは障害への理解もされないまま、福祉支援を受けにくい現状があります。育ってきた環境の中で、自己肯定感を失い、自暴自棄になってしま

うこともありえます。権力欲に燃えた政治家やエリートが弱い者を踏み台にする世の中で、ほとんどの人は自分に余裕がなく精一杯に暮らしています。普通に結婚して働いていても

酒に溺れたり、ギャンブル依存等で、生活困窮に陥っていく人もいます。

「明日の空」の支援に繋がる人たちは、既に福祉に繋がっているケースもありますが、障害が見過ごされて福祉に繋がっていないケース、生活困窮からホームレスになり食料品の万引きを重ねたりしているケース等様々です。日本の福祉制度は申請主義で、申請しなければ制度から漏れてしまうのです。

「獄窓記」が

2003年に、山本讓司さんの「獄窓記」がベストセラーになり、刑務所に高齢者、障害者が多くいることが知られました。

その後、長崎県の社会福祉法人が中心となり、厚労省と法務省を巻き込んで、調査・研究事業が開始されました。

支援センターで

2009年には、司法と福祉を結び、出所者に福祉支援を行う「地域生活定着

支援センター」が各県1所設立されることになりました。

私とそのセンターで勤めていた時、ある事件の国選弁護士となった荻大祐弁護士と出会い、情状証人となる等の支援をしました。

逮捕され、累犯受刑者となる前の段階で支えることが大切だと気付いたので。

「明日の空」を設立

2014年にNP O 法人「明日の空」を設立。

主には弁護士からの依頼で、被疑者・被告人段階で拘留所や留置場に会いに行き、もう悪いことはしたくない、支援を望みたいという意思があれば、更生を支援します。

刑務所に入る人にしろ釈放される人にしろ、社会復帰を目指し、生活保護を申請する、すぐ働きたい、治療に専念したいと、それぞれの思いを受けて必要な機関へ調整し、支援していきます。

私たちが生きている社会、

自分の安心、安全だけでよいのでしょうか？

格差や貧困、排除、いま社会で起っている現実に私たちは何ができるのでしょうか。

困った人を支えることは、加害者を出さない、つまり被害者も作らないことなのです。

盆暮れにはバーベキューや雑煮を楽しんだりしています。賛助会員になる、金品を寄付する、生活物資を保管する場の提供などがあれば有難いです。また累犯を防ぎ支えるシステムをどうつくるかなど、いろいろな課題があります。みなさんのご協力をぜひお願いします。

なお、飯田智子さんは一昨年、罪を犯した人の更生に尽力した人を表彰する「作田明賞」最優秀賞を受けました。

NPO法人明日の空

TEL 05559435601
FAX 05559435602

ホームページ

ashitanosora.net/